札幌市円山動物園ビジョン 2050 第 1 次実施計画の進捗状況（令和元年度）

1　札幌市円山動物園ビジョン 2050 第 1 次実施計画

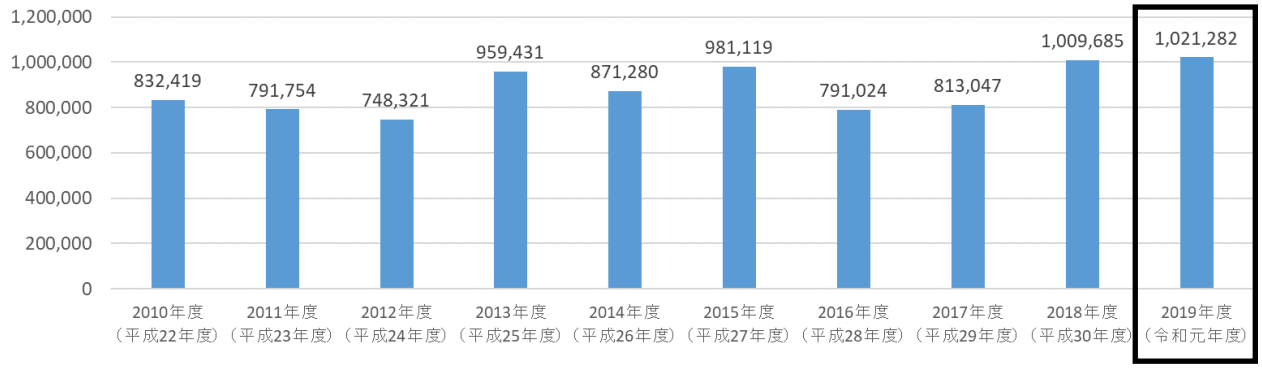
当園の基本方針「ビジョン　2050」の基本理念である「命をつなぎ　未来を想い　心を育む動物園」を実現するため、円山動物園の具体的な事業・取組をまとめたもの（計画期間：2019.4.1～2024.3.31）

2　主な事業の進捗状況

重点項目	事業名	事業内容	数値目標		進捗状況
			指標	2018→2023	
保全	飼育展示していく動物種の推進事業	ビジョン 2050 の「飼育展示していく動物種の考え方」に基づき当園で飼育する動物を分類し、推進種については、国内外の飼育個体群の動向を注視し、飼育園館と連携して積極的に繁殖に取り組む。	「飼育展示していく動物種の考え方」に基づく推進種や希少種の繁殖種数（累計）	10 種	4 種 オランウータン、スンダスローロリス、ミヤコカナヘビ、カンムリシロムク
	種の保存推進事業	国内の動物園、水族館及び保全活動組織と連携し、絶滅危惧種の域外保全、個体群保全の機能強化を図り、国内、特に北海道に生息する希少動物の保護等に係る調査研究を実施するとともに、取組を情報発信する。	生息域内保全活動の実施回数（単年度平均）	11 回→20 回	26 回 ・コウモリ調査（10 回） ・外来植物駆除活動（7回） ・シマリス調査（4回） ・道東での野生動物調査（1 回） ・外来生物展(1 回) ・ホッキョクグマ保全推進事業（1 回） ・オオワシ会議（1 回） ・ニホンザリガニ調査（1 回）
	ホッキョクグマ保全推進事業	ホッキョクグマをモデルケースとして、生息地における調査研究・保全活動に携わる機関との連携を通して、生息域内での保全、国際的な枠組みでの飼育下個体群の保全に貢献する。			
	オオワシプログラム推進事業	北海道に生息する絶滅危惧種であるオオワシの保全のため、大学や研究機関その他保全関連機関との連携の下、将来の生息状況の悪化に備えて、飼育下繁殖個体を用いた野生復帰技術を確立するとともに、これらの取り組みを通してオオワシをはじめとした海ワシ類の現状と保全について普及啓発する。			
	ニホンザリガニプロジェクト事業	環境変化に脆弱で、近年生息環境の悪化や外来生物による圧迫などにより生息数の減少が懸念されているニホンザリガニの保全のため、飼育下繁殖技術の確立に向けた調査研究を進めるとともに、市内の同種の生息状況調査を行い、来園者への普及啓発を行う。			

重点項目	事業名	事業内容	数値目標		進捗状況
			指標	2018→2023	
教育	動物たちの魅力をより深く伝える解説の実施	動物の能力や生態、生息域で発生している問題などをより深く伝えるための解説や体験メニュー等の充実を図る。	園内における解説やガイド実施数	1,277 回/年→1,350 回/年	1,017 回/年
	地域の環境教育の拠点機能の強化事業	動物たちを通じて、様々な環境問題を伝えるために、継続的に地域に根差した教育活動を行う。	総合学習等の受入れ人数	8,968 人/年→10,000 人/年	11,435 人/年
調査・研究	動物園における調査研究と情報発信の推進事業	野生生物の保全や、飼育動物の科学的な管理に資するため、動物園の基本的な役割の一つである調査研究を推進するとともに、その成果を適切に情報発信し、社会への還元を目指す。	学会等で調査・研究内容を発表した回数(単年度平均)	3 回→5 回	14 回 ・種の保存会議ポスターセッション ・種保存会議シンポジウム ・第 29 回ゾウ会議 ・第 60 回日本動物園水族館教育研究会柏大会 ・第 67 回動物園技術者研究会 ・日本動物園水族館北海道ブロック大会 ・ミヤコカナヘビ飼育検討会議 ・宮古島の希少種保全等に係る連絡会議 ・ミヤコカナヘビ生息域内保全部会 ・日本動物園水族館両生類爬虫類会議 ・ニホンザリガニ円山会議 ・第 17 回関東東北・北海道ブロック合同動物園技術者研究会 ・アカハナグマのてんかん治療の発表 ・は虫類両棲類の発表
			調査・研究内容の情報発信	0 回/年→5 回/年	3 回/年 ・オオワシの野生復帰技術確立に向けた取組 ・新設したゾウ舎の概要と取組 ・飼育下におけるニホンザリガニの科学的知見の集積
リ・クリエーション	円山動物園おもてなし事業	国内外の観光客誘客及び来園者の観覧環境充実のため、リーフレット、動物解説板及び Wi-Fi 環境の整備、HP の閲覧しやすさの向上を行う。	冬季来園者数(11～3 月)	254,505 人→300,000 人	154,153 人
	観覧ルート別マップ作製事業	親子、車いす利用者、休憩しながらゆっくり歩きたい方、観覧時間の余裕が短い方など、さまざまな状況の観光客が動物園を楽しめるおすすめの観覧ルートを示したマップを作成する。	来園者の満足度	毎年向上 ※2018 年度未実施	98%

重点項目	事業名	事業内容	数値目標		進捗状況
			指標	2018→2023	
動物福祉	予防医学の観点に立った健康管理の取組事業	動物の健康をできるだけ長く良い状態に保つため、疾病の予防にも重点を置いた取組を行う。	ハズバンダリートレーニング実施種(累計)	19 種→35 種	20 種 レッサーパンダ、エゾリス、マレーグマ、カワウソ、シマウマ、ゾウ、ユキヒョウ、アムールトラ、キリン、カバ、クロザル、アライグマ、ミニホース、ヒマラヤグマ、アザラシ、ホッキョクグマ、ヒグマ、オランウータン、シンリンオオカミ、アカハナグマ
	動物福祉評価事業	世界動物園水族館協会(WAZA)が加盟施設に対して、2023 年までに動物福祉にかかる自主評価を完了することを求めていることに鑑み、日本動物園水族館協会(JAZA)が策定するガイドラインによる自主評価を実施する。	動物福祉評価	実施完了 ※2018 年度未実施	未実施

3 来園者数の推移

(単位：人)